

【4-10 SR レポートのまとめ】

CQ9 乳癌治療が終了した乳癌患者が新たに生殖補助医療を受けることは推奨されるか？

乳癌治療が終了した乳癌患者に新たに生殖補助療法(ART)を行うことで、乳癌の再発率、死亡率の悪化を認めないかを評価すべく、システマティック・レビューを行った。

アウトカムとして無再発生存期間(DFI)、乳癌生存期間(OS)、エストロゲン(E2)値、再発率を設定し、Pubmed および医学中央雑誌にて検索を行い、2 個のコホート研究を評価した。

DFI/OS/E2 値については乳癌治療後に新たに ART を行った患者を対象とした研究がなく、評価不可であった。

再発率について、周術期及び乳癌治療終了後に ART を行った群と ART を行っていない群を比較した 2 つのコホート研究を評価した。乳癌治療終了後に ART が行われた 29 例を含む周術期に ART が行われた 37 例と ART を行っていない 148 例の再発率を比較した研究¹では再発率の増加は認めなかった(再発率 0%vs24.8%)。乳癌治療終了後に ART を行った 25 例と乳癌治療終了後に自然妊娠を経験した 173 例の再発率を比較した研究²でも再発率の増加は認めなかった(再発率 8% vs16.2%)。いずれもコホート研究でありエビデンスレベルは低い、一貫性は認められた。

以上より、乳癌治療が終了した乳癌患者が生殖補助医療を受けることで DFI/OS/E2 値に及びず影響を評価することはできないが、乳癌再発率は変わらないと考え、乳癌治療が終了した乳癌患者が生殖補助医療を受けることは、乳癌に対する害は少ないものと考えられる。

1)31872070

2)26070684